



秋田県生涯学習センター
〒010-0955 秋田市山王中島町1-1
TEL: 018-865-1171
FAX: 018-824-1799
E-mail: sgcen002@mail2.pref.akita.jp
編集: 社会教育アドバイザー



秋田県自作視聴覚教材交流発表会



2月19日(金)に生涯学習センターを会場に、「秋田県自作視聴覚教材交流発表会」が行われました。視聴覚教育の充実のために毎年開催され、今回で65回を数える伝統ある交流発表会です。

応募作品については、そのねらいや構成、技術面等を観点として審査が行われました。いずれも、作者の願いが伝わるすばらしい作品であり、感動しました。今年は、小中学生から2作品の応募がありました。横手市立朝倉小学校4年生の鈴木宇宙さんは、3年生の時から学習しているメディアリテラシーの技術を生かし、檜岡焼について現地での取材をもとに調べたことを発表しました。緊張した面持ちながらも、立派に発表することができました。また、湯沢北中学校保健委員会の皆さんはインフルエンザの予防の仕方について、パワーポイントを使い、プレゼンを行いました。いずれの作品も力作でした。今田智範審査委員からは、「全体的にねらいがはっきり分かり、技術力の高さに裏打ちされた作品や地域に根ざした作品等価値あるものを見ることができた。互いの作品から、学び合ってほしい。」と講評がありました。

出品されたDVD作品は、当センターで視聴・貸出ができます。ご活用ください。

<発表作品・発表順>

◎;最優秀賞 ○;優秀賞

	作品名	作製者	講評	メディア
1 ○	三枚のお札	中川 文子 佐々木愉美子	方言とパネルの組み合わせがよく、アナログな画面が効果的であった。昔話の世界がよく表現されていた。	パネルシアター
2 ◎	カラスのクルミ割り	鈴木 三郎 佐々木昭元	題材が身近であり、最後まで飽きさせない。テロップの数やナレーションの量が程よく、大変見やすかった。	DVD
3 ◎	ウスタビガの繭づくり	福嶋 信治	生きものの知恵や営み、生態を学ぶことができる。画像がきれいで、手間のかかった作品である。	DVD
4 ○	陶芸作りにチャレンジ 檜岡焼	朝倉小学校 4年鈴木宇宙	取材体験をもとに多くの情報が詰まっている。日頃のメディアリテラシーの学習を生かした作品である。	DVD
5 ○	インフルエンザを予防しよう	湯沢北中学校 保健委員会	多学年にわたる子どもたちの興味・関心を引く構成に工夫があった。調べたことがよくまとめられていた。	パソコン
6 ○	そばを打ってみませんか!	菅野 辰男	そばの作り方が丁寧にまとめられている。そばの魅力を伝えたいという作者の気持ちが伝わった。	DVD
7 ○	百万遍念佛講	小野まさる	作品構成がよく、大切にしたい記録映像である。地域の人々の温かさが伝わってきた。	DVD

※「カラスのクルミ割り」「ウスタビガの繭づくり」「百万遍念佛講」の3作品は、全国自作視聴覚教材コンクールに推薦されました。



◇パネルシアターによる
「三枚のお札」 中川文子さん



◇「インフルエンザを予防しよう」
湯沢北中学校保健委員会の皆さん



◇優秀賞を受賞する横手市立朝倉
小学校 鈴木宇宙さん

行動人

《学んだことを生かして行動する人》

秋田には、学んだことを生かし、地域や周囲の人々を元気にしている人たちが大勢います。



「とってもいい姿勢ですよ。その調子で歩きましょう。」ホールの中に**後藤利恵子さん**の明るい声が響きました。後藤さんは、ウォーキングインストラクターとして秋田市中心公民館“サンパル秋田”で行われている「女性のための健康教室；意識改革！姿勢美人」を担当しています。PTA活動で始めた8人制バレーボールで生涯スポーツと関わったことをきっかけに、スポーツを通じて地域づくりに取り組んできました。現在、生涯学習奨励員としての活動とともに、秋田市スポーツ推進委員として20年間にわたり、「健康のつどい」の企画・運営に携わっています。さらに、どこでも誰でも気軽にスポーツができるように、ニ

ュースポーツの普及にも努めています。

「大好きな上北地域をスポーツで元気にしたい、健康年齢を引き上げたいという気持ちで取り組んできました。高齢者が多く子どもが少なくなってきた今、世代間交流も大切にしたいと思っています。ふるさと先生として小学校でニュースポーツを指導しながら、子どもたちとも関わっています。地域のイベントにその子どもたちが参加し、高齢者と接点をもつことができました。嬉しいことです。今後も、地道に活動をしていきたいと思っています。」と笑顔で熱く語ってくれました。



◇元気に運動して、みんなが“姿勢美人”

《高校生が主役のまちづくり》

高校生がまちづくりについて考える“マチコラボ”が、能代市で開催されました。主催はまちおこしNPO「オモシエナ」です。市内を中心に20名の高校生が、慶應大学特任助教 若新雄純さんの講演を聞いたり、ワークショップに参加したりして、まちづくりについて考えました。



「主役になるってどんなこと？」と題された講演では、鯖江市役所JK課プロデューサーとしてもユニークな活動をしている若新さんが語る一言一言に頷きながら聞き入っている高校生の姿を見ることができました。若新さんは時代の特徴をとらえながら、「どんな人生が充実していると言えるか分からない今の時代、正解や人の評価は気にせず、自分の考えを発信することが主役になるということではないか。」と話されました。ワークショップでは、正解を言わなければならないという意識は捨て、自分の考えを正直に述べる練習をしました。「実はいつも考えているマニアックなこと」等について語り合い、楽しみながらの活動でした。なお、ワークショップは、本年度3回行われました。



◇ワークショップの様子

昨年度に引き続き行われたこの実践は、「行動人連携学習プログラム」の一環として、当センターが支援して開発された実践です。今回、当センターの手を離れて実施されたことは喜ばしいことです。参加した高校生は、正解はないのだからという若新さんの話に引き込まれ、自分の考えを率直に話すことの大切さを実感しているようでした。まずは発信してみることのメリットを、そしてその中にまちづくりの種が潜んでいることを感じさせてくれる実践でした。